

ごみゼロネット推進会（第17回）議事録

開催日： 2010年（H22年）1月18日（月）14:00～16:25

場所： 公民館東分館 生活室

出席者： 平林、市原、杉本、大橋、加賀谷、塚田、桐生（作成）

議題：

1. ごみ問題を考える市民ネットワーク会議の決定事項と話題報告（大橋）

本日の午前中の頭記会議で決定した事項の報告。

- 小金井市のごみ対策課で7月を目途に「ごみアドバイザー制度」を発足させる。一般アドバイザー10名、
内
15名が生ごみアドバイザーとなる。研修を6月に行う。
- HDM推進上の課題は分別を含むシステム作り。アドバイザー制度を使ってはどうか。
- 議員14名が既にHDMを見学している。議員は積極的である。行政全体HDMをどう進めるか。我々は何をなすべきか。次回は2/15、議題はHDMをどう推進するか。

2. HDM実証試験の進め方討論

- HDMは小金井市の立場上、「非焼却」ではなく「ごみの減量」として推進するのが望ましい。（市原）
- 堀内氏とも話し合ったが、HDMは運営に必要なエネルギーが少ない利点を強調して、東京都の温暖化ガス削減の補助金を申請すれば認許される可能性が大きいと思われる。（平林）
- 実証試験は行政と市民が一緒になってやらないと進まないと思う。小規模でもまずやって、確実にになったらPFI方式なども実現性が高くなるのでないか。（大橋）
- ごみ対策課が多忙なら、実証試験グループを編成して当たってはどうか。それに我々が入るなどの進め方がある。そのためにはビジョンとスキムを予め確定しておく必要がある。（杉本）
- 議員の多数派がHDMに賛成なら、議員と市民が協働して動けないか。具体的にはエアーズシティ500所帯を対象に、ジャノメ跡地で生ごみを分別収集してHDM処理（日量約300kg、菌床20㎡程度）するのが現実的（住民への説明も容易。パッカー車も不要）。必要なスキムを立案して、議員のイニシアティブで進めて貰ってはどうか。（桐生）

3. HDM実証運転事業計画書ドラフトの説明（加賀谷）

- PowerPointをホワイトボードに映写して説明。HDM実証運転事業地として①ジャノメ跡地、②新小金井駅前、の2カ所を想定して、敷地内ヤードプラン、設備レイアウト、設備計画（設備と費用）を行った。
- ジャノメ跡地の場合、施設候補地は26m×15m=390㎡、菌床面積20m×5m=100㎡、高さ1.5m（日量2ト相当）。新小金井駅前15.8m×15m=237㎡、菌床10m×5m=50㎡（日量1ト相当）。その他、設備計画と予算の説明あったが、詳細は省略。具体的な計画が図や表になって、計画のイメージが現実的になった。

4. 結論

- （1）ごみ処理に関する超党派議員団の動き方をして貰うための根回し作戦を検討する。（担当市原）
- （2）HDM実証試験を議員提案していただくために必要なスキム原案を作成する。（担当桐生）

以上

次回打合せ 日時：2月8日（月）10:00～12:00 / 場所：ウエスト



